私の愛唱讃美歌

第四集

2007.4～2010.3

○ 代田教会で定期的に発行していたものです。
私がところどころ copy しました。（第四集の巻頭言は）

I編　四六一番「主われを愛す、主は強ければ」
―思い出の讃美歌―

水本　和智

特に愛唱讃美歌としているものはない。音譜もよく読めない音痴のせいかも知れない。しかし総じてどの讃美歌もよい曲だと感じ、いつも歌詞を味わいつつ心から神を讃美する思いで歌っている。

初めて讃美歌に触れたのは小学生のとき、終戦直後何もかもが荒んでいた時代、九州の熊本県荒尾市にあった宮崎記念館で始められた日曜学校であった。この館は中国民主化の父孫文を親身になって支援した宮崎家のために中国が建ててくれたそうであるが、当家の宮崎滔天の姪宮崎貞子先生（後に、恵泉女学園の英語教師）が熱心なキリスト者であったことからここに伝道の火が灯された。有明海を望む洋館の窓から潮風に乗って聞こえる讃美歌は天使の響きのようであった。この日曜学校で必ず歌うのが「主われを愛す」であった。歌詞の真意もよく解らないまま楽しく歌った。当伝道所の宣教の火は燃え続け、「荒尾教会」が建った。私はここで洗礼を受けた。爾来六十年、今も主が私を愛しておられることを思い、至上の感謝を覚える。

この讃美歌に出会う度にキリスト教に導かれた少年時代を思い出し、心が熱くなる。